

I ころとくらしの課題について

検診に行きづらい

- 医師や検査技師が男性だと思いと、おっくう
- 仕事や家事、育児等で検診に行く余裕がない
- 20～30代で乳がんが発症することが啓発されていない

I ころとくらしの課題について

告知後の気持ち

- 乳がんは、中高年女性の病気だと思っていた
- 治療にいったいいくら位かかるのだろうか
- 一生結婚せず、ひとりで生きていかなければならぬのだろうか
- 親にどう話したらいいだろう

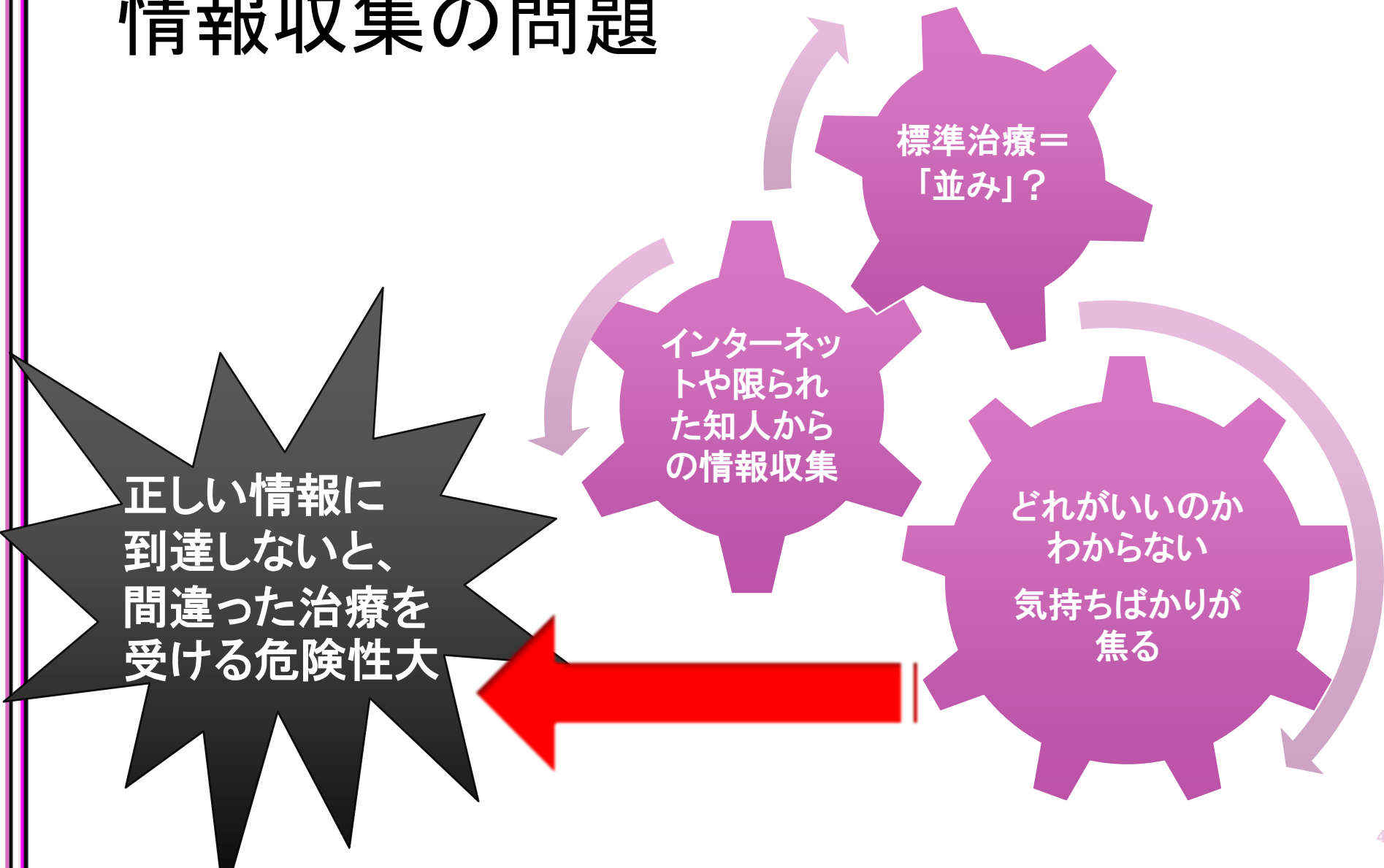
I ころとくらしの課題について

治療の選択に伴って起こる思い

- 自分の女性らしさが失われるのではないか
- 「切らなくてもいい」治療法はないか
- 副作用を伴う抗がん剤治療を受けたくない
- 乳房再建の情報を収集しなければ

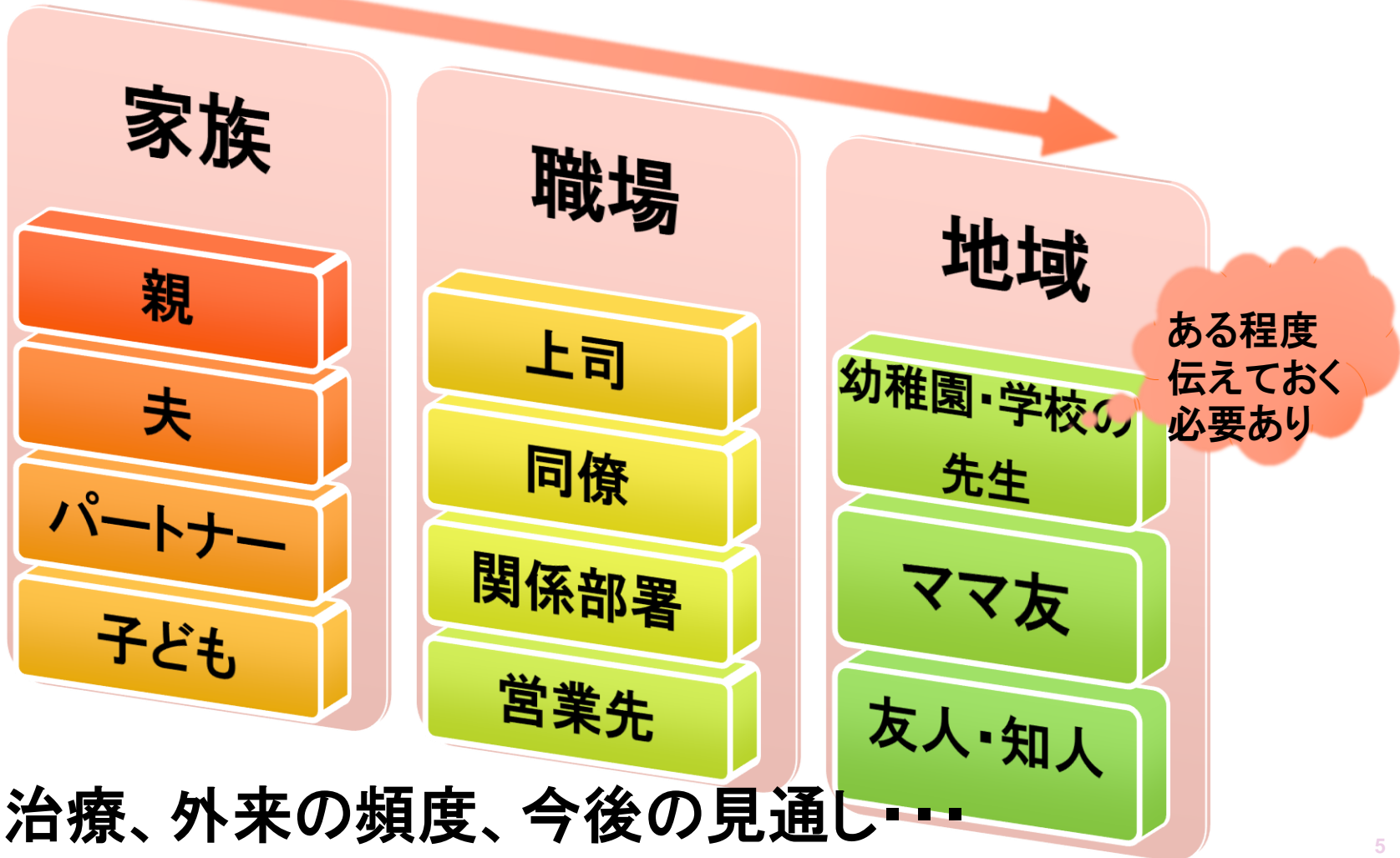
I ころとくらしの課題について

情報収集の問題



I 心とくらしの課題について

誰にどこまで伝えるか



- 治療、外来の頻度、今後の見通し...

I ころとくらしの課題について

未婚の場合

恋愛・結婚

- 異性へのカミングアウト
- 恋愛関係が終了するかもしれない

友人

- ウィッグだから会えない
- 話したら、「引いて」しまった

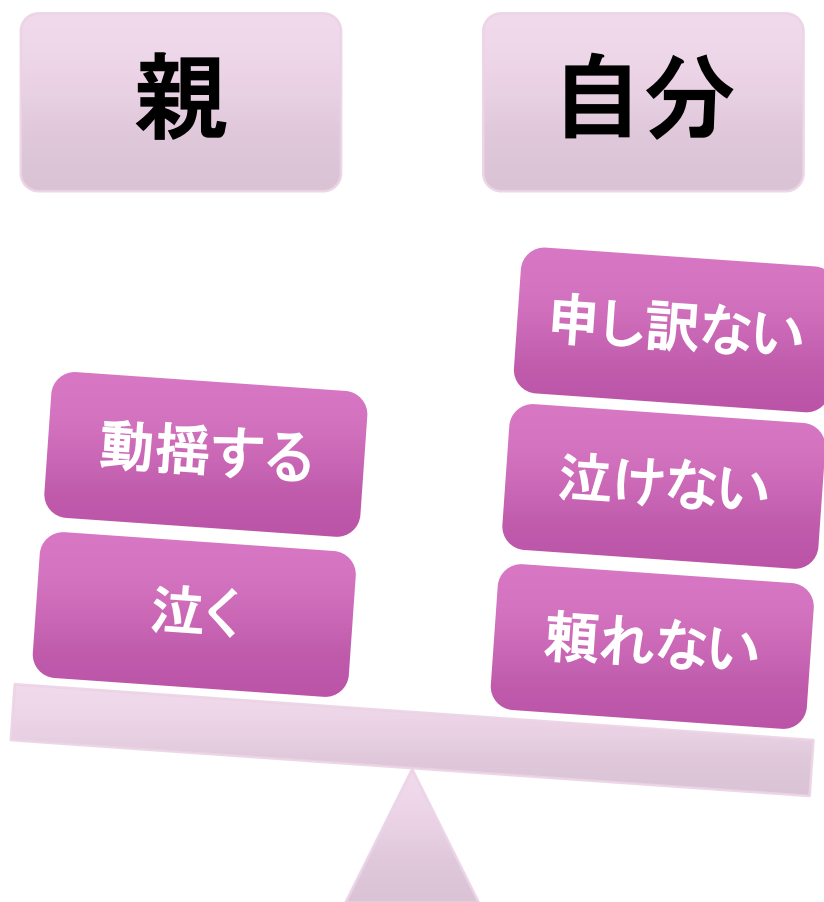
仕事

- 仕事を休む・減らす
- 以前と同様に働かざるを得ない

親のサポート
がありがたい

I 心とくらしの課題について

親との関係



I ころとくらしの課題について 仕事をどうするか

- 治療費を払うため、辞めるわけにはいかない
- 有休は足りるか
- 医療保険は
- 治療と両立できるか

不安

諦め

- 親には頼れない
- 職場の理解はあるが、協力や配慮はない
- 転職はむずかしい

- この先どうやって働いていったらいいか
- 親に迷惑をかけたくない

迷い

後悔

- 一部の人のしか話していないのに、他の人も知っている
- 勧告されるまま、退職してしまった

I ころとくらしの課題について

子どもがいない場合



I ころとくらしの課題について

子どもがいる場合

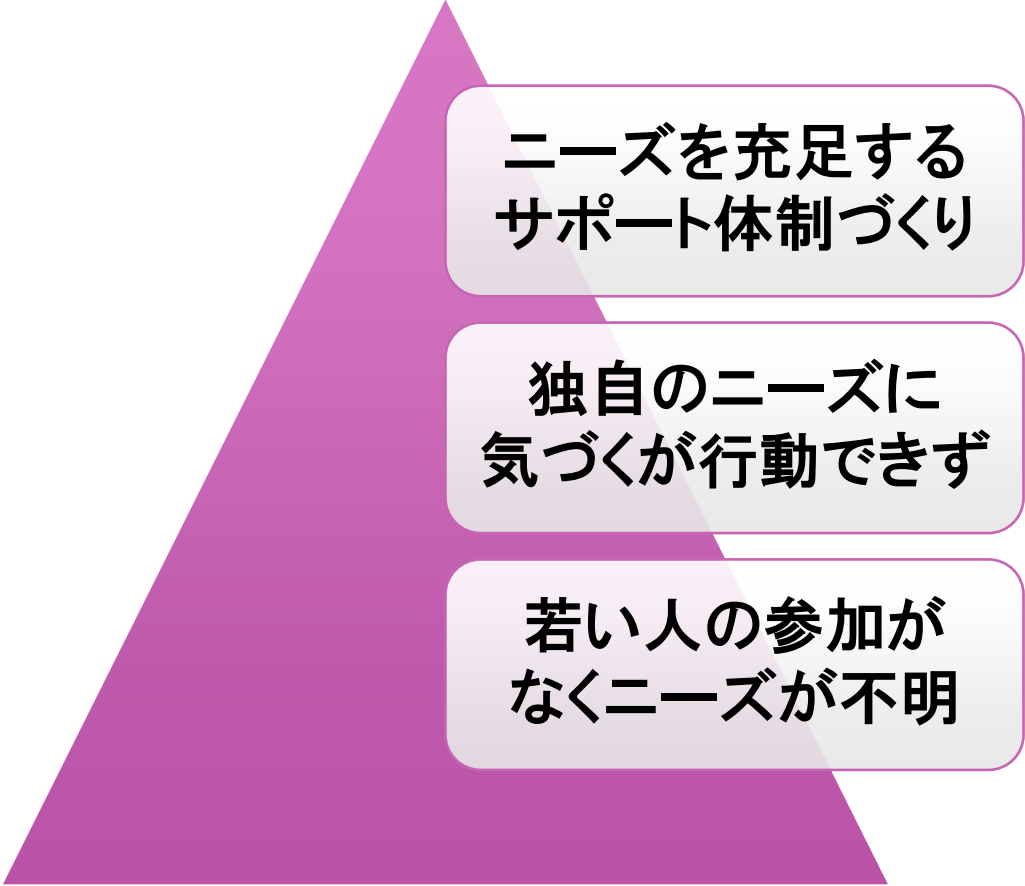
病気の説明

- 子どもに病気のことを何と伝えるか
- 子どもの不安を解消してあげたい
- 質問にどう答えるか

母親の役割

- 健康な親ならできる当たり前のことができない
- 子ども、学校、家庭内のことを考えなければならない

Ⅱ 仲間同士のサポートについて ～患者会の中で 患者会により差がある



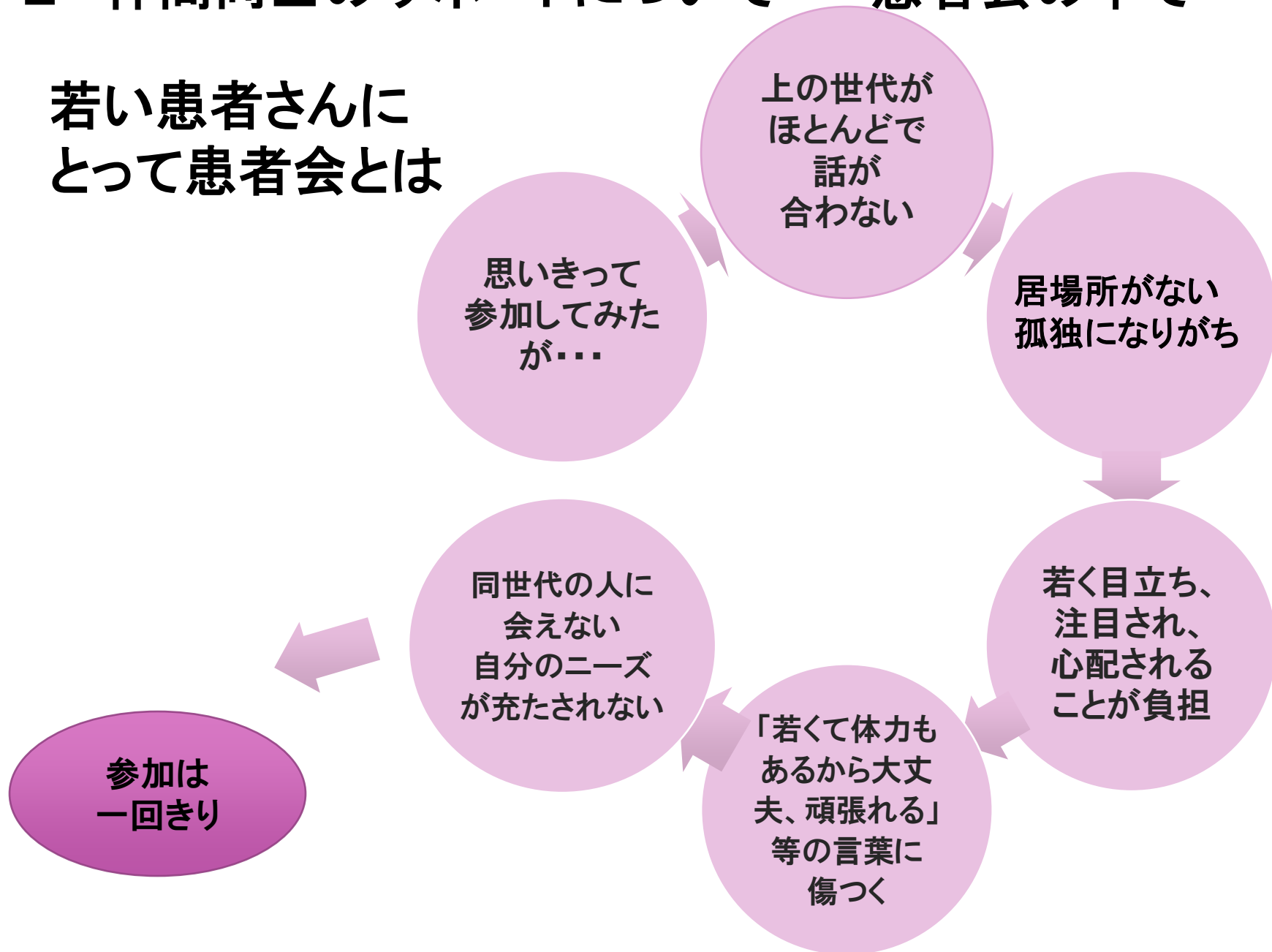
ニーズを充足する
サポート体制づくり

独自のニーズに
気づくが行動できず

若い人の参加が
なくニーズが不明

Ⅱ 仲間同士のサポートについて ～患者会の中で

若い患者さんにとって患者会とは



Ⅱ 仲間同士のサポートについて ～患者会の中で

若い患者さんのための サポートプログラムの実例

■おしゃべり会

初発年齢別にグループ分け

■電話相談

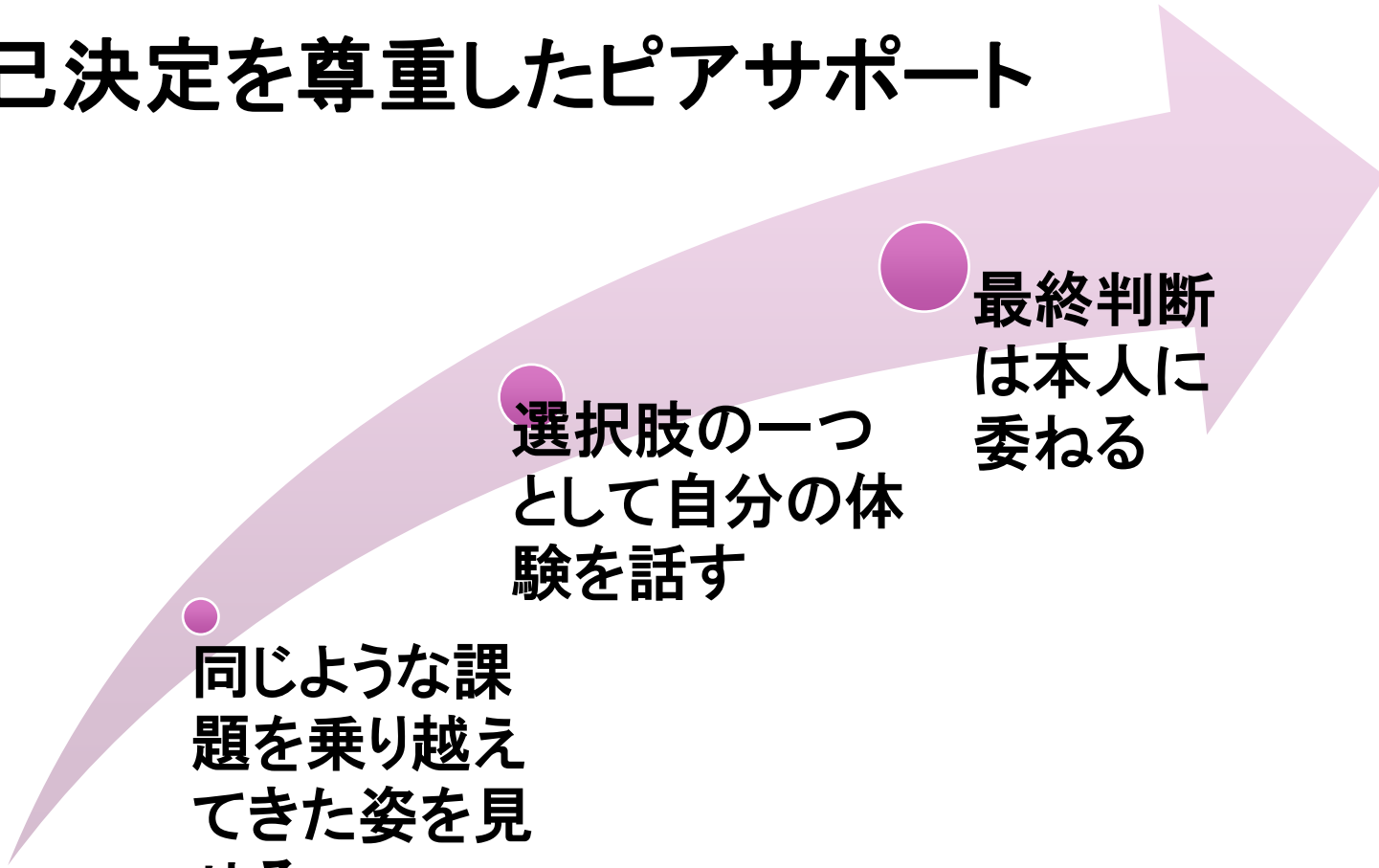
若い人と相談できるよう当番日をHPで告知

■新たなグループ立ち上げ

若い人だけで交流会

Ⅱ 仲間同士のサポートについて ～患者会の中で

自己決定を尊重したピアサポート



同じような課題を乗り越えてきた姿を見せる

選択肢の一つとして自分の体験を話す

最終判断は本人に委ねる

Ⅱ 仲間同士のサポートについて ～患者会の中で

- ひとりでいたら、自然と誰かが話を聞きに行く
- 本人が辛いことを話せるように配慮した言葉かけをする
- 否定をせず話を聞く
- いろいろ説明しなくても、ピアだからこそ、わかってもらえることが救いになる

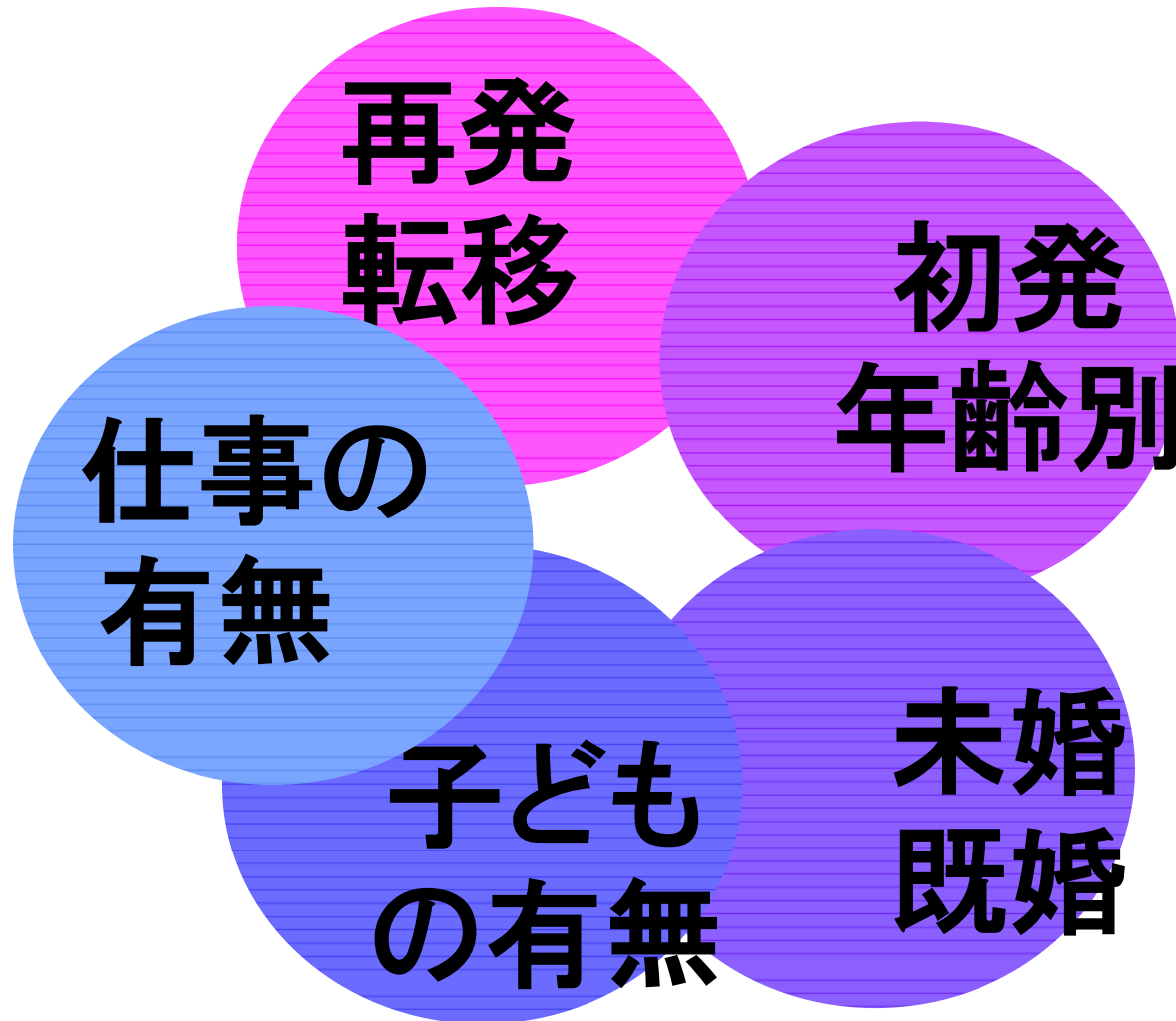
ピア（仲間）として
声かけ

Ⅱ 仲間同士のサポートについて ～患者会の中で

- 「泣くこと、落ち込むことはとても大切」
「今つらくても絶対に抜けられる」
- 「術後1年間は以前の自分とのギャップを感じることもあり不安で当然。
それが過ぎれば自分のペースでやっていける」
- 希望があれば、乳房再建後の状態を
実際に見せることもある

体験者という立場
からアドバイス

Ⅱ 仲間同士のサポートについて ～患者会の中で ピアサポートをシステム化



まとめ

- 「若い」というひとくくりのみでとらえるのは困難。家族や生活等の状況によって、それぞれの持つところとくらしの課題は多様である
- 課題と向き合い、乗り越えて社会で生活する仲間の姿が、いま同じような課題に直面している人にとって大きな支えとなる
- 病院でも若い患者さんに出会うことはまれ。病院の枠を超え、地域において若い患者さんも集える「場」を提供する患者会の意義は大きい
- 妊娠や出産など根拠に基づいたデータに簡便にアクセスできればサポートする側も安心